

アクションプランの取組成果について

1 趣旨

令和5年7月に「県立中井やまゆり園当事者目線の支援アクションプラン～一人ひとりの人生を支援する～」(以下「アクションプラン」という。)を策定して以降、アクションプランに基づく取組を進めてきた。

アクションプランの進捗確認にあたっては、「個々の取組の状況だけでなく、利用者の暮らしが豊かになったのかという視点」で確認していくこととしており、令和7年度は計画期間の最終年度であり、取組による成果を見える化していく必要がある。

具体的には、活動量や意識・意欲の変化といった、利用者支援の評価軸を検討し、取組前後(ビフォーアフター)を評価していくことで、利用者・職員双方の満足度の向上につなげ、地方独立行政法人における福祉科学研究に繋げていく。

2 取組による成果の見える化

計画期間である3年間で利用者、職員、組織がどう変わったか(良くなったか)、変化を客観的に見える化する。

- ・利用者の変化
- ・職員の变化
- ・組織の変化

例) 健康診断の血液検査が2年前と比べて、アルブミン値が全ての寮で改善傾向にある。

3 アクションプランの取組成果の指標

項目	成果の指標
利用者の変化	【活動・参加】 ・園内の活動内容 ・園外の活動内容 ・外出機会の頻度(月あたりの外出回数/園外活動時間) ・地域との接点(一人当たりの居場所の数) ・活動量(活動時間・歩数など) ・身体拘束の実施状況(居室施錠の頻度・時間) 【健康状態】 ・健康診断結果(アルブミン値・骨密度) ・栄養状態のリスク判定(低・中・高) ・筋肉量(大腿部の太さ) ・睡眠・生活リズムの安定 【満足度】 ・喜怒哀楽の記録の変化 ・言語の記録の変化 ・能動的な行動の記録の変化

職員の 変化	【当事者視点での支援実践】 ・ 生育歴の充実度（A～C） ・ 利用者面談の実施頻度 ・ 人となりシート等の変化 ・ E R /GP（グッドプラクティス）の蓄積 ・ 記録内容の変化（記録内容・件数・GP の量） 【メンタルヘルス】 ・ ストレスチェックの結果
組織の 変化	【当事者主体の施設運営】 ・ 利用者の声を反映する仕組み （利用者自治会の頻度、本人参加会議の回数など） ・ 利用者の声を基にした運営改善 （声の件数・改善した事例件数） ・ 施設全体のコミュニケーション （挨拶が自然に交わされているか、職員間の風通し） ・ 施設全体の清潔さ（修繕や掃除が行き届いているか） 【地域生活移行】 ・ 活動場所の整備 ・ 地域との接点（関わる事業所数） ・ 地域生活移行者数（外部事業所・G H） 【人材育成】 ・ 研修実施状況（実施頻度・研修参加者数） ・ 寮ごとの自己評価・課としての自己評価

4 検討事項

- ・ アクションプランの取組成果の指標として合っているか。
- ・ 複数の取組が重なり合って、一人ひとりの、ひとつの成果に繋がっているが、成果の見える化から、有効な取組をどう見極めればいいのか。

＜参考＞モデル寮の評価軸

令和 7 年 4 月に設置した園長直轄のモデル寮では、モデル寮の実践による取組前後（ビフォーアフター）を評価していくことで、その成果を明らかにし、利用者・職員双方の満足度の向上につなげていくとともに、「利用者の状態の見える化」を進め、地方独立行政法人における福祉科学研究に繋げる。

次の項目を入所時、令和 4 年度、現在で評価

（１）利用者の状態

区分	項目	取得するデータ
活動	園内の活動	・ 活動内容 ・ 活動時間
	園外の活動	・ 活動内容 ・ 活動時間（外に出た時間） ・ 園外に出た回数
	活動量	・ 歩数計による測定
	筋肉量	・ 体組成計による測定 ・ 大腿部の太さ
	身体拘束	・ 居室施錠の頻度・時間 ・ その他身体拘束
参加	役割	・ 家族の役割 ・ 園内での役割 ・ 地域での役割
	関わる人の数	・ 利用者の人数 ・ 職員の人数 ・ 家族の人数 ・ 地域住民等の人数
	居場所の数	・ 地域の通う場の数
満足度／幸福度	表情	・ 喜怒哀楽の記録数・映像
	言語表出	・ 言語の記録数・映像
	行動意欲	・ 能動的な行動の記録数・映像
心身機能・身体構造	既往歴	
	服薬情報	・ 服薬歴・服薬量
	健康診断データ	・ BMI、体重変化 ・ 血液検査データ ・ 骨密度データ など
	嚥下機能	・ 機能評価 ・ 食形態 ・ 食事摂取量
	排泄・睡眠	・ 睡眠時間

（２）支援者の状態

- ・ 人となりシート等の変化